

《どうでもいい話、その 608》

どうでもよくない皆様へ

小・中学校教師たちの長時間労働が問題になっています。企業でも役所でも、てんてこ舞いの忙しい部署とダラーとヒマな部署があります。上の人は業務状況をよく観察し、人員を適正配分しなければなりません。私も昼食に時々カレーライスを食べますが、その時、適正配分問題で悩みます。カレーライスは、法律で定められているわけではありませんが、ゴハンとカレー汁と福神漬け（もしくはラッキョウ）によって構成されているのが一般的です。但し三者の量はその時によって異なります。カレーライスを食べ始めるときに、この三者の量比率を掌握し、食事開始から終了に至るまでの綿密な配分計画を立てます。スプーン一口分のゴハンにどのくらいのカレー汁を配合したら偏らず均等に最後まで食べられるか、また福神漬けはどの時点で結合させるか、ということに心をくだくのです。前半にカレー汁をかけるすぎて、後半ゴハンだけをむなしく食べる、なんてことのないようにしなければなりません。一口食べて、今のカレー汁の量は多すぎなかっただろうか、と反省し、二口目はカレー汁の量を減らし、三口目は少し余裕が出来たのでタップリとかけ、また反省し、と一口ごと反省と悔恨に責め立てられます。そして前半を終了した時点で三者の配分状況を見極め再検討し、後半の配分計画を練ります。

岩波より